

ひとりぼっちのいない まちを目指すために どう取り組むか



大宜見 洋文 議員

答 学校にも意見を聞きながら進めていく

問 本町でも町民有志20人で「みんなの学校」の上映会が行われた。教育部学校教育課長も鑑賞されたが、どうだったか。

学校教育課長 上映されたその学校は校長を筆頭に非常に一生懸命、インクルーシブ教育に取り組んでいる。

問 私は、糸満市教育委員会主催で「みんなの学校」を見た。本町でできない理由は何か。

学校教育課長 インクルーシブ教育の充実には、いろいろな方策がある。どういう対応をとるか、学校に意見を聞きながら進めていく。

4つの児童館の利用拡充の計画はあるか

問 児童館の調理設備などを整備して夜まで利用可能にする方針は、次年度から実現するか。

副町長 児童館の夜の活用は、調査を終え、平成31年度実施

に向けて検討を始めている。

問 自治会から公民館等を学習支援や居場所として活用したいとの要望も聞くが、どう住み分けるか。

副町長 現在、自治会から要望は届いていない。まず児童館の活用から検討する。

町社会福祉協議会の事業を問う

問 日常的金銭管理支援事業の状況はどうか。

副町長 日常的な金銭管理支援事業は、平成28年度が23件、平成29年度が2月末で29件である。

問 件数は増加傾向と見ていか。

こども課長 毎年4人から5人増えている。支援対象者は、1回支援を始めると一生続く。担当の許容量を超えて、支援できなくなる状態が起こる可能性がある課題である。

問 解決策は考えているか。

こども課長 県社協の事業で大きな市が基幹となって、ほかの町と一緒に金銭管理業務を行う基幹的の事業がある。それが平成31年度から市町村単独の補助事業になるという情報を得ている。また、成年後見制度の事業があり、これをセツトに事業のフォローができる。いか検討している。



こんな質問もしました

- 少人数学級の実現を目指すために
- 町民の健康維持へのインセンティブは
- 農福連携について